

教育方法シラバス

第25期介護教員講習会

「教育方法」・・・学習へのご案内・・・

担当 川廷 宗之

・・・介護教員講習会「教育方法」履修予定の皆さまへ・・・

「介護」を教えるのは、職場でも後輩にやってきたし、別に仰々しく「教育方法」など学ばなくてもできる、と思うかもしれませんが、また、そんなの大学で履修したし、と思うかもしれませんが、確かに、数人の人にもものを教えることは、特に学ばなくても上手にできる方もいます。また、大学などでしっかり学んだ方もいるでしょう。

しかし、教えられた人は、それで上手に仕事を楽しむことができるようになったでしょうか。大学などで「教育〇〇」を学んではいても、学生と共に学び合う楽しさを見つけることができたでしょうか。勿論、仕事も学びも、それを行う意義が確認できて、楽しくなければならぬというのは大前提です。

そういう学びを展開するには、学習内容も大切ですが、「学ぶ方法」も非常に重要になります。その意味で日本の教育方法にも、大きな転換期に入りつつあります。其れはネットの活用ということもありますが、「アクティブ・ラーニング」の普及です。このアクティブ・ラーニングを象徴しているのが下の表1です。

表-高等教育のパラダイム転換

	授業の従来のパラダイム	授業の新しいパラダイム
知識観	①教員の知識を学生に伝達すること。	①知識は学生が組み立て、発見し、変形し、広げるものである。
学生観	②空っぽの器を知識で満たす。	②学生は、意欲的に自らの知識を構成する
授業の目的	③学生を分類、選別すること。	③教員が取り組む目標は学生の能力開発
人間関係	④非人間的な関係の中で教育を施すこと。	④教育は共同して学習する学生同士の、また教員と学生の人間的なやりとりである。
学習環境	⑤競争的な組織構造を維持すること。	⑤全ては共同という関係においてしか生まれない。
授業の前提（教員の条件）	⑥（教育）専門家は訓練を受けなくても教えられる。	⑥ <u>教育は、理論と研究の複合的応用であり、 相当な訓練と技能、手続きの継続的な向上が必要である。</u>

出典) ジョンソン, D. W.・ジョンソン, R. T.・スミス, K. A. 著/関田一彦監訳『学生参加型の大学授業—協同学習への実践ガイド』高等教育シリーズ, 玉川大学出版部, 2001

この「教育方法」の授業では、此の表の考え方をベースに、色々な体験も交えながら、楽しく学べるアクティブ・ラーニングによる学習支援の方法を学んでいきます。

この「教育方法」の授業は、以上の様な趣旨で、クラスの仲間と共に楽しみながら学び、発見し、身に着ける場です。担当講師も、学習のガイドラインを示しながら「教育方法」を身に着けられる様に、ぜひ、皆さんと共に成長していきたいと、新た出会いを楽しみにしています。

なお、此の授業は「介護教育方法」と一連の流れとしても開講されます。大学等でかつて「教育方法」の単位を取られていても、以下のシラバスにまとめてある内容を修得されていないと、「介護教育方法」での学びがかなり大変なので、そういう方は、この「教育方法」と組み合わせて履修頂くようお願いします。そうすれば、高い学習効果を得られるでしょう。

以下、この「教育方法」での学習の内容や方法などについて紹介しておきます。楽しみながら学び、内容を身に着けていくためには、様々な準備も必要です。以下をお読みいただいて、準備をして取り組んでいただけるようお願いいたします。

(担当教員・川廷 宗之)

1. 科目名 教 育 方 法

2. 科目担当者及び学生 (共に学ぶ仲間たち)

〇〇人の熱心かつ優秀な、介護教員となることを目指す、平日は働いて貴重な土日も学ぼうという目的意識のはっきりした(超多忙な?)学生の方々と、担当教員・川廷宗之(かわてい もとゆき)[大妻女子大学 名誉教授]です。

3. 授業時間

土曜日(又は日曜日)の午前9時30分から午後4時30分までを原則とします。また、授業時間以外の予習復習の時間として、毎回につき1～2時間を必要とします。

4. 実施教室

教室での対面授業ではなく、すべてZoomを使ってオンライン型の対面授業で行われます。(オンデマンドではありません。) 今回の授業では基本はPCを使うことを想定して進めます。教材等は、全部PC想定で準備されています。

5. 皆さんと担当講師のコミュニケーション ――問い合わせ・連絡先――

授業で使用するレジュメ(発表したりする時の概要をまとめたもの)の提出先などで使う、連絡先(事務局)のアドレスは、kaikyordi2019@yahoo.co.jp を使っているので、何かと必要になりますので登録しておいてください。

ご質問や問い合わせなどのご連絡は歓迎します。出来るだけ、授業時の休み時間などに質問していただくと良いのですが、うまくいかない場合は、Eメールでお願いします。kawateikaikyo@yahoo.co.jp (質問等送信先、個別相談事項も)なお、個別での回答には2～3日、内容によっては1週間前後の時間を要する場合がありますのでお含みください。

6. メイン・テーマ 介護福祉士養成のための「学びを支援する方法」

7. キーワード

- ・教育理念 ・教育方法 ・「授業」 ・授業方法 ・アクティブ・ラーニング
- ・授業設計（計画） ・シラバス ・授業案 ・コマシラバス ・学習教材
- ・教科書 ・教材開発 ・PBL 学習法 ・問題解決学習 ・討議法
- ・個別指導 ・学習指導 ・学習支援 ・教育課程 ・授業改善 ・教授法（学）
- ・FD ・教員 ・表現活動 ・体験学習 ・協同学習 ・発問 ・板書
- ・ポートフォリオ ・メディア革命 ・情報教育 ・ルーブリック評価
- ・キャリア・ガイダンス ・授業評価 ・教員評価 ・授業研究 ・授業記録
- ・介護福祉（教育） ・教師教育 （主なもののみ）

※キーワード＝授業終了時に理解している（説明できる・その単語を使って物事を語れる）べき単語 （学びの糸口になる・資料検索時に活用できる単語）

8. 学習の目的と達成課題

この講習会の目的は（介護福祉士養成系の）「実務家教員」として職業教育機関の教員になるために修得しているべき内容と「方法」を学ぶことが基本目的です。「教育方法」はその為の基本的基盤になります。では、何ができるようになればよいと言う「目的」や「達成課題」を以下整理しておきます。

- ①学習者中心の授業を展開できる授業設計を作れるようになること。
- ②アクティブ・ラーニングに関する基本的理解を深めること。
- ③アクティブ・ラーニングにおける教員の役割を理解し、実践できるようになること。

9. 学習者が達成すべき課題（達成課題＝教育の到達目標）

- ①学生中心の「授業設計」を創れるようになること。
- ②アクティブ・ラーニングの考え方を実践できる様になること。

10. 皆さんへの学習支援の方法

- A. この授業は、「教育方法」という科目の授業の目的に照らし、必要な力量を身につけることが目標です。単なる知識の修得が目標ではありません。（使えない知識を学んでも意味がない。）
- B. 従って、授業実践それ自体から、体験的に学ぶ部分が大きいので、授業方法は単なる（余り望ましくない授業方法である）講義法による授業展開を出来るだけ避け、皆さんの主体性な参加を大切に、全員が自分の見解を述べあえる授業方法をとります。皆さんは毎回、当該授業のテーマなどについて、質問や異見を用意するなど、授業に自分で関わっていく努力を丁寧に続けてください。

11. 教材・テキスト

テキスト・・・授業中に使います。

- ①川廷 宗之編著「専門職大学の課題と展望」ヘルスシステム研究所2018年刊行
- ②本田 由紀著「教育の職業的意義」ちくま書房

サブテキスト・・・授業中に使う可能性があります。

川廷宗之編著『介護教育方法の理論と実践』弘文堂（介護教育方法テキスト）

川廷宗之編著『介護教育方法論』弘文堂（まだ入手可能・アマゾンへ）

D.W.ジョンソン他著（関田一彦他訳）『学生参加型の大学授業』玉川大学出版部

早川操・伊藤彰浩編著「教育と学びの原理」名古屋大学出版会・2015年刊・

主要参考文献・・・巻末に掲載してあります。

1 2 . その他教材

毎回、『学習資料』の形で、授業で使う資料を送信する予定です。又、皆さんが提出する課題も、同じ班のメンバーには、配布されます。（優秀な場合は、全員に）これらの資料は、その後の授業でもしばしば振り返って使うので、いつでも引き出せる状態にして、PCなどの保管しておいてください。

1 3 . 毎回の学習予定と主題

《アサインメント課題を含む》

全30時間・課程

< 単元1・・・私が考える授業構想 >

第1回・7月17日（午後）・授業を創ってみよう

- * 授業ガイダンス * 参加者自己紹介
- * 教育方法＝授業を創っていく
- * アサインメント①出題・・・科目の選定・テーマの設定

第2回・7月24日（午前）・授業とは何か ・授業を創る ・アクティブラーニングとは

- * 授業づくりのプロセス
- * 授業を行うための準備（授業設計・シラバス・授業案・教材）
- * アクティブラーニング（学習者は何を学ぶのか・・・基本目標は何か）

第3回・7月24日（午後）・私が創る授業とテーマ ・その授業での学習目的と達成課題

- * グループ討議・・・「授業科目の設定とテーマ」に関して情報交換
- * 授業を創っていく。（学習目的と達成課題）
- * ディプロマ・ポリシーとの関係
- * アサインメント②出題・・・「授業目標、達成課題の設定」

< 単元2・・・新たな学びを切り開く教員－学生関係・

・・・方法としてのアクティブ・ラーニング >

第4回・8月7日（午前） ・教員とは ・学習者とは ・教員－学習者関係のあり方

- * 教員とは何をする人か。（学習者への責任）
- * 学習者の特徴（日本の） * 教員－学習者関係のあり方
- * アクティブラーニングでの授業展開とは。
- * アドミッション・ポリシーへの反映

第5回・8月7日（午後）・学習目的と達成課題はかみ合っているか ・学修効果測定入門

- * グループ討議（学習目的と達成課題の内容と両者の整合性は）
- * 達成課題と学修効果測定（試験）
- * 学習効果測定の方法

* アサインメント③出題・・学習効果測定（試験）問題の作成

第6回・8月21日（午前～13時まで）・他領域の他者の教育研究実践から何を学ぶか

- * 第18回職業教育研究集会（10時から13時まで）に参加して、学ぶ。講演
- * 職業に生きる実学としてコミュニケーション」
- * 「他領域から何を学ぶか」（口演発表から学ぶ）

<単元3・社会人も対象とした職業教育の方法と学習効果測定>

第7回・8月21日（13時40分から～午後）

・学習効果測定はできたか。・授業設計はどう創るか①

- * グループ討議（その学習効果測定問題で、適切に効果が測定出来るか。）
- * 授業設計をどう創るか（総論・各論）
- * カリキュラム・ポリシー
- * アサインメント④出題・・授業設計の作成

第8回・9月04日（午前）・生涯学習における教育方法 ・職業教育における学習方法

- * 普通教育と職業教育の方法の違い
- * 職業教育は生涯学習対応が多い
- * 生涯学習における教育方法
- * 教材をどう用意するか

<単元4・・授業設計からシラバスへ>

第9回・9月04日（午後）・その授業設計で授業は可能か

・「学びへの招待」を考える（学習者のニーズへの対応）

- * グループ討議（その授業設計で学習目的が実現できるか。使えるか。改善点は、）
- * シラバスとは何か。学習者への招待状・カタログ・メッセージ
- * 学びへの招待
- * アサインメント⑤出題・・「学びへの招待」の作成

第10回・9月25日（午前）・意欲をかきたてる「学びへの招待」

・対面授業からオンライン授業へ

- * グループ討議（その「学びへの招待」で学生は学びたくなるか）
- * 「教育方法」授業まとめ・・教室での対面授業からオンラインでの対面授業へ

※1. 学習日程は皆さんの学習状況や、社会情勢の変化、講師の（健康上の）都合などで、一部変更がありえますのであらかじめ御了解ください。

※2. 内容的な関連性が強いので、『介護教育方法』の内容は、いつも意識しておいてください。（介護の場合は、どうするのか）

14. 他の授業との関連

この科目は、教育基礎分野として、教育学（教育の全体像の理解）・「教育方法」・教育心理（教育対象者の理解・特に青年期の）・教育評価の4科目で構成される分野の一環です。従って、この4科目を含めて包括的な理解に留意して下さい。

なお、近年は教育機器やシステムの発展によって、講義式の一方通行の授業はビデオ配

信の方が優れた内容を送る場合が増えました。そのため、学内授業は、学生が参加し教員とともに作っていく双方向の授業（アクティブラーニング）が重視されるようになっていきます。この双方向授業というのは、様々な意味づけがあり、それを実現していくためには、それなりの専門的技術が必要です。その意味で、教育方法は重要な学習テーマとなっています。

又、この教育方法は、教育課程の全体像をも学ぶことを合わせて目的としています。従って教育方法の内容を理解していないと、「介護教育方法」の授業内容の理解が極めて浅いものになってしまうと考えられますので、その点についても特に留意し、教育方法の理論も実践的に理解するようにしてください。

1 5. 成績評価の方法・採点基準

この科目の単位認定は、全回の出席を前提として、以下の3点のレポート類の提出内容で評価します。全体で60点以上の成績によって、認定（科目修了認定）されます。

- a アサインメントの提出、及び、学習者コメントカードの提出状況
- b 授業中に作成した「授業設計」の最終修正版
- c 『私が学習者に提供できるものは何か』（3000字程度を目安）についてのレポート

※。a は全部提出されていればよい。b と c は採点します。（60点以上必須。定点基準のルーブックは、授業中に公開します。）

※。成績評価を行う場合は、ライセンスにつながる評価の場合と、単なる評価で良い場合では、評価方法や評価基準の違いに留意が必要です。本来はこの科目は、ライセンスにつながるので、しかるべき基準での評価を行うべきであろうと考えます。

1 6. ホームワーク・・・質問を一つ以上・俳句と短歌の宿題

第一のホームワークは、毎回の授業で出題されるアサインメント課題への対応です。多くの場合この課題は自分にとっても、ともに学ぶ仲間にも大きな意味を持ちますので、必ず提出の仕方に注意して、班の仲間を困らせないように注意しながら提出してください。

第二のホームワークは、教育技術としての観察技術及び表現能力を高めるための訓練として、毎回一句の俳句と一首の短歌を作成してことです。なお、俳句は観察したことを中心に詠むことを課題としますので、季語は問いません。（この授業の性格上、観察対象を学生、又は若者、あるいは利用者の皆さんに限定します。但し原則ですから例外を認めます。）短歌は自分の心境を中心に書いてかまいません。この二つは、毎回提出の学習者コメントカードに記入して提出してください。この俳句短歌の内、私の選択眼に叶うものについては、次回の授業資料に掲載します。色々な事情があって掲載されたくない場合は、『掲載不可』と添書しておいてください。（観察技術・表現技術の重要性・あなたはどれだけ出来ていますか・・・自己覚知）

1 7. メッセージ

- ①. この授業は教員養成授業で、一般の学生向けの授業とは異なります。通常の常識として考えれば大学院の修士課程のレベルと考えて良いでしょう。従って、それなりのレベルとスピードで展開しますので、お忙しいでしょうが、しかるべき予習復習などを含めて頑張ってください。

- ②. 授業中や、授業終了時などの、皆さんの質問は大歓迎されます。又、学習者コメントカード（リアクションペーパー）等で積極的な質問の提出を求められます。これらの質問は、次回の授業時に原則として必ず回答されます。なを、学習者コメントカードに質問を記入する際は、質問が出てきた箇所を明記してください。（例・〇〇さんの報告の△△の箇所の説明で……。例・授業通信〇ページの〇では……。例・授業資料〇ページの先生の解説の中では……。）これが明記されていないと、回答が頓珍漢なものになることがあります。また、質問と、感想や考察は区別しましょう。感想・考察は「質問3」の項にご記入ください。
- ③. この授業に基本的に皆さんの意見や質問が大切にされて進行します。質問や意見の出し方を学ぶとともに、プレゼンテーション技法も大切なので、発表用資料（レジュメなどを含む）の作成等も課題になります。色々と工夫して発表を楽しんで下さい。（パワーポイントなどの使用も奨励されます。）
- ④. 又、授業への注文や感想・意見はおおいに結構ですから、遠慮なく、授業中でもカードでも出して下さい。注文や文句が多いからと言ってマイナス評価はしません。むしろその積極性を高く評価します。但し、私も大いに反論を試みる積もりですのでよろしく。

http://www.keishin-group.jp/keishin_fr/rdi/committee.html

18. 履修のポイント、履修上の留意事項

全員参加で授業を作り上げていくには、参加者が授業中に色々な活動などを行う必要があります。その内容に関して、以下項目のみ列挙しておきます。詳細内容は長くなりますから、第1回目に説明します。

- ①授業への貢献 ②予習と復習 ③宿題（アサインメント課題）
- ④提出物（レジュメなど）
- ⑤PCの活用・メールによる連絡・・・この授業はネットを活用して行われます。従って、予め、個別のネット環境を整えておいていただけるようお願いします。
- ⑦学生コメントカード ⑥提出課題などの授業資料への掲載
- ⑦出席を（レポート不調でも）（遅刻・早退・無し）
- ⑧授業への参加・質問・など ・私語・発言・注文
- ⑨学生による授業アンケート 実施します。
- ⑩目標を明確に持って、充実した授業を楽しんで下さい。

19. 主要参考文献・・・ 授業では使いません。自己学習用です。

- ① 川廷宗之著『社会福祉教授法』川島書店（アマゾン・古書）
- ② 川廷宗之編著「社会福祉士養成教育方法論」弘文堂
- ③ 瀧本哲史著『ミライの授業』講談社
- ④ ジョージ・ジェイコブズ他著『先生のためのアイディアブック』ナカニシヤ出版
- ⑤ リンダ・グラットン&アンドリュー・スコット『ライフシフト・・・100年時代の人生戦略』東洋経済新報社
- ⑥ 梶田叡一著『教育評価』有斐閣（「教育評価」テキスト）
- ⑦ 出口治明著『ここにしかない大学』日経BP社
- ⑧ 林 純次著『残念な教員・・・学校教育の失敗学』光文社新書
- ⑨ 山本崇雄著「なぜ『教えない授業』が学力を伸ばすのか」日経BP社

- ⑩ 内田樹著『下流志向』講談社（文庫）
- ⑪ 森口朗著『授業の復権』新潮社（新書）
- ⑫ 絹川正吉著『大学教育の思想』東信堂
- ⑬ 尾木直樹著『子どもの危機をどう見るか』岩波新書
- ⑭ つくば言語技術教育研究所編『イラスト版ロジカル・コミュニケーション』合同出版
- ⑮ タム・スティーブソン他著「大学教員のためのルーブリック評価入門」玉川大学出版部
- ⑯ 稲垣忠他著『教師ためのインストラクションデザイン・授業設計マニュアル』北大路書房
- ⑰ 溝上慎一著『アクティブラーニングと教授学習パラダイムの転換』東信堂

参考文献は、単に教育関連にとどまらず、大変多岐にわたっていて、読み切れないと思うかもしれません。が、この授業はこれらの文献から学んだ内容をベースに構成されています。その意味で、個々の文献に関しては授業中に触れていきますが、一つ一つの学びの内容の奥行きを考えて理解を深められれば素晴らしいでしょう。言うまでもなく、良い本は智慧の宝庫です。読んでみるといろいろな発見があるはずです。是非、斜め読みでもよいので、図書館などを活用してできるだけ読んでみましょう。

なお、最近は、高等教育や教授法に関する文献も非常に増え、400～500冊くらいが入手可能です。従って、良い本を選ぶことは大切です。また、インターネット上に授業情報が色々と公開されるようになってきているので、それらも参考にしてください。

介護教員講習会用「教育方法」シラバス

以上